

税に関する中学生・高校生の作文 入賞作品を紹介します



福津市長賞 「この船に未来を託して」
光陵高等学校1年 三船七海 さん

セミの音が鳴り響き、夏も本番が始まった夏休みの始めのころ、父から1枚の写真を見せてもらいました。

私の故郷は福岡県の玄界灘に浮かぶ相島です。相島は人口約300人のとても小さな島です。しかし現在、過疎化が急激に進んでいます。人口の約60%が60歳以上のかたです。そのため、島の公民館や渡船の切符売り場などが次々とバリアフリーに対応した建物へと改築、新築されました。ここ5年で建て替えられた建物は全部で三つあります。その費用は莫大なものと思います。人口が300人ほどの島民が皆で出し合うには限界があります。そこで新宮町や福岡県、国の税金が使われました。この税金のおかげで高齢者のかただけでなく島民全員がより快適な生活を送ることができるようになりました。

そして今年、相島と新宮町とを結ぶ渡船が新たに造船されることになりました。今の渡船は段差も多く、急な階段もあります。車いすの人が十分に入ることのできるトイレもあります。私の父はその渡船の船長をしています。今回の造船に内装や船のデザインなど深く関わっています。そして今夏、最終調整をして決定した船のデザインを見せてくれました。内装も小さな子どもや高齢者のかたでも乗りやすい設計になっているそうです。もちろんこの造船の費用も税金が使われました。新しい船になって島にどれだけの活気が生まれるか、小さな子どもたちや高齢者のかたがたがどれだけ快適かつ安全に乗船することができるようになるか、考えただけでも夢が広がります。

消費税も上がり、税金を納めるというより取られているという感覚を持っている人も少なくはないのでしょうか。しかし、皆さまが納めてくれた税金で島の未来は変わろうとしています。この船には島民の夢と希望が託されています。また、島民の人以外でも通勤していただいている先生や釣り客やレジャー客として常に相島に来ていただいているかたも同じことを託されていると思います。自分が納めた税金で造られた小さな島の船がたくさんの人々に夢と希望を託されている、知らないところで知らない誰かのために役に立っている、そう考えると、税金に対する意識はがらりと変わるものではないのでしょうか。



福津市長賞 「税金がしてくれること」
福岡中学校3年 中村俊太郎 さん

僕は今まで税金が嫌い、なんで税金なんてあるんだろうと思っていました。いろんな商品に税金が掛かっていて、正直なところでは、税金は必要ないと思っていました。実際に店で商品を買う時、消費税のせいで買えなかったことがありました。でも、今回税について詳しく勉強して、その考え方がまるっきり逆になりました。なぜなら、僕たちが払っている税金がとて広い範囲で生活に生かされていることが分かったからです。世の中には「税金はいらない」「無駄だ」と言う人がいます。でも、もし税金のない世界になると、とても不便で大変なことになってしまいます。そこで、税金のある世界とない世界を比べてみたいと思います。

まず、税金のない世界では、もちろん消費税や所得税がなく、みんなが今までよりも多くの金を手にすることができます。しかし、いい点はこれくらいだと思います。もし、火事や事件が起こった場合、消防署や警察署の人の設備の費用は税金でまかなわれているため、自分でお金を払い、火事を消したり犯人を逮捕してもらうこととなります。また、僕たちが通っている学校も税金でまかなわれているため、学校そのものがなくなってしまうこととなります。また、義務教育の教育費は税金でまかなわれているため、みんながお金を払わないと授業をしないし、そもそも学校自体が建設されないこととなります。さらに、道路の建設や補修、標識や信号機の設置、ごみの収集や処理、病院の建設や運営、上下水道の整備といった、僕たちの生活で必要不可欠なものまでなくなってしまいます。

一方、僕たちのいる税金がある世界では、消費税などでお金が取られたりしますが、その税金のおかげで住みよい社会があります。たとえ火事や事件が起きたとしても、消防署や警察署が僕たちを守ってくれます。そして、子どもたちは誰でも義務教育によって教育を受けることができ、中学生になれば部活をすることができます。その部活も、税金に支えられています。学校のグラウンドや体育館、中体連などの大会で使われるような大きな球場や競技場も税金によって作られています。それに、道路やごみ処理場、病院、水道、社会保障、公共施設なども税金でまかなわれているのです。

今回、税金のことについて勉強して、新しく分かったことがあります。それは、税金は払うときは嫌なものだけど、形を変えてきちんと僕たちの元へと返ってきて、笑顔にしてくれるものだということです。僕は、税金は今の僕たちの生活に欠かせないものだと思います。



**香椎税務署管内納税
貯蓄組合連合会会長賞** 「税とわたし」
福岡東中学校3年 岩佐真珠 さん

私が学校に登校しているときのことで。途中の道で「増税反対」という看板を見ました。私はそのとき「なぜ増税に反対するんだろう」と疑問に思いました。そこで私は、税金が何に使われているのかを調べてみました。

調べてみると、税金は社会保障や公共事業、防衛、文教および科学振興などに使われていることが分かりました。そのうち社会保障が約三分の一を占めています。社会保障とは、医療保険、年金制度、老人福祉、介護などのことで、ほとんどのことが高齢者に関わっています。また、日本では高齢化により高齢者の割合が増えています。このことにより、社会保障が約三分の一を占めているのです。平成7年の社会保障関係費は約19.6%でした。しかし、平成26年の社会保障関係費は約31.8%です。約12.2%増えています。このことから分かるように、高齢化が進むにつれ、社会保障の費用が増えていきます。その費用を負担するのは働き手です。しかし、少子化も進んでいるため、働き手一人に対する負担はとて大きくなります。だから、国民全体が負担する消費税増税は正しいと思います。もし、所得税や法人税の引き上げを行うとすると、一層働き手の負担が大きくなります。しかし、消費税を増税するという事は、働き手だけでなく、高齢者を含めて国民全体で負担することができるということにつながります。だから、私はみんなが協力して助け合っていくべきだと思います。

社会保障の他にも、私たちの暮らしに関わってくるものはまだあります。例えば、私たちの身の回りにある学校や道路などの公共物は、公共事業で作られています。また、私たちが使っている教科書なども、文教および科学振興として無償で配られています。こうして普段の生活を振り返ってみると、税金は私たちの生活にすぐ役に立っているんだなと思いました。

私たちはこれから、生活の多くの場所で税金をたくさん払っていくこととなります。今まではただ何となく払っていたけれど、これからは自分たちが払う税はとて大切なんだという意識を持って払いたいです。



**香椎税務署管内納税
貯蓄組合連合会会長賞** 「税があることの意味」
津屋崎中学校3年 角田一紗 さん

「税金」という言葉をよく耳にしますが、税金について考えてみても、何のためにあるのかなど、詳しいことは分かりません。そこで、配布された資料をもとに、話したいと思います。

税金は一言で言うと、「社会への会費」です。私たちは一人で生きているのではなく、家族・学校・職場・地域社会などいろいろな社会集団の一員として生活しています。その中で、私たちみんなが豊かな生活を送るためには、「経済政策」「公共事業」「社会保障」などを充実させていくことも大切になります。さらに、教育や文化の向上を図ったり、公害の防止など環境を保全したり、犯罪などから私たちを守ったりといったさまざまな仕事が必要になってきます。これらの仕事は、個人や一つの企業だけで解決できるものではありません。そこで、国や地方公共団体(都道府県や市町村)がこれらの仕事を行っています。しかし、これらの仕事を行うためには、非常にたくさんの費用が掛かります。そこで、その費用を国民が「税金」という形で法律に基づき負担しているのです。これらのことから、税金は私たちが社会の一員として生活していくために支払う会費といえるでしょう。

私はこれまで生活してきた中で、増税するたびに不満になっていました。それはこれからも変わらないかもしれません。しかし、税があることの意味を知って、国民が豊かに暮らしていけるようにするための一つの方法であるならば、この社会で生活していく以上、支払うべきものであると思いました。

税金の使われ方にもたくさん種類がありますが、私が注目したのは国際協力に使われる税金です。それを「経済協力費」といいます。この税金は、国際社会の平和を願って、世界の人々のために支援することに使われるお金です。私にとて良い使い道だと思います。世界には、多くの人々が貧困や飢餓に苦しみ、国際社会が見逃ごすことのできない深刻な事態に陥っている国々があります。こうした国々の生活環境を改善するためには、国際社会が協力して援助する必要があります。そのため、日本などの経済力のある国々が、発展途上国との対話を進めながら経済援助を行い、自立を支援しているそうです。

このようにして、税金は国民のためだけに使われるのではなく、日本以外の国々の人々も豊かに暮らせるようにするためにも使われていることが分かりました。

以上のことを踏まえて、私は社会の中で税金が良いように使われ、今後の生活がより豊かなものになっていくことを願っています。